



フローレンスは2024年に
創立20周年を迎えました

こどもたちのために、日本を変える
Florence

認定 NPO 法人フローレンス

代表理事 赤坂 緑

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1丁目14-1 KDX 神保町ビル 4F
TEL 03-6811-0903 FAX 03-6811-0902 <https://florence.or.jp/>

2004年 特定非営利活動法人内閣府認証取得

2012年 東京都より認定特定非営利活動法人（認定 NPO 法人）取得
スタッフ（事務局・支援スタッフ他）合計 728 名（2025 年 4 月現在）

フローレンスグループ

- 一般社団法人
こども宅食応援団
- 医療法人社団マーガレット
（「フローレンスこどもと心ク
リニック」を運営する法人）

関連団体

- 特定非営利活動法人
全国小規模保育協議会
- 一般社団法人
全国医療的ケア児者支援協議会
- 特定非営利活動法人新公益連盟

受賞歴

- 2024 年 「東京都女性活躍推進大賞」特別賞＜地域部門＞受賞
- 2024 年 第4回 SDGs ジャパンスカラシップ岩佐賞受賞
- 2025 年 ウェルビーイングアワードグランプリ受賞

皆様のご支援が こどもたちの未来をつくる

わたしたちの活動はご支援くださる皆様のご寄
付によって支えられています。詳細は、右記の QR
コードをご確認ください。



寄付額最大約 5 割が戻ってきます

フローレンスは東京都の認定を受けた認定 NPO 法人です。
ご支援くださる皆さんは、所得税、法人税、相続税などの税
制上の優遇措置を受けることができます。

ANNUAL REPORT 2024

2024年度活動報告

みんなで紡ぐ、心躍る未来



こどもたちのために、日本を変える
Florence

20年の振り返りとこれから

創立 20 周年を迎えたフローレンスのあゆみをご紹介します。

創業期 フローレンス誕生

2004 年

創業者・駒崎弘樹が
NPO 法人フローレンスを立ち上げ

創業者 Story

「こどもの看病をしたら会社をクビになった」そんな一人の母親の声から、仲間とともに病児保育事業を立ち上げました。「誰にでも社会を変える力がある。誰でもルールメーカーになれる」僕のスピリットはフローレンスに受け継がれ、新しいあたりまえを社会に生み出し続けています。

認定 NPO 法人フローレンス 創業者
駒崎 弘樹

2005 年

日本初の
共済型・訪問型の
病児保育事業を開始



2008 年

病児保育「寄付による
ひとり親支援プラン」開始



TOP MESSAGE

一人一人の想いに、心からの感謝を込めて

20 周年という節目を、志をともにしてくださる多くの方々と迎えられたことを、心からうれしく思います。今改めて感じているのは、「フローレンスの仲間たちと利用者の皆さん、活動を応援してくださる寄付者・支援者の皆さんがいたからこそ前に進んで来られた」ということです。

「お子さんの体調が安定して親御さんがホッとした顔になって、疲れがとびました」と話してくれる病児保育スタッフの笑顔。

「今日こんな新しい発見をした、こんなことができるようになった」とこどもたちの小さな成長を喜ぶ保育園の保育士の姿。

たくさんの困難を乗り越えて障害児保育園ヘレンの開園が決まった瞬間、オフィスに鳴り響いた拍手と歓声。

失われるかもしれない小さな命を総力戦で救った赤ちゃん縁組チームの安堵した表情。

「フローレンスの障害児保育があったから、自分は社会に戻ることができた。わたしを社会に戻してくれてありがとう」と話してくれた利用者さんの涙。

そして、これらのきらめくような瞬間を、この社会に生み出す力を与えてくださった寄付者・支援者の皆さんの情熱。

一人一人のもっと社会を良くしたいという想い、かけがえのない行動の積み重ねが今のフローレンスを形作っています。これからのフローレンスも、皆さんとともに、心躍る未来の実現に向けて、新たなステージへと歩んでいければ幸いです。

代表理事 赤坂 緑



法制化 小規模認可保育所

Director's Voice

2012 年、おうち保育園をモデルとした「小規模保育」が「子ども・子育て支援法」に盛り込まれ、2015 年には「小規模認可保育所」として制度化。待機児童の解消に大きく貢献しました。

2010 年

待機児童解消のための
おうち保育園開園



2014 年

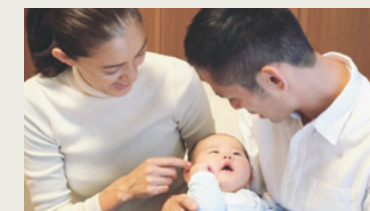
障害児保育園ヘレン開園



第 2 創業期 さらに福祉寄りへ

2016 年

にんしん相談/
特別養子縁組事業開始



Director's Voice

「#赤ちゃん遺棄ゼロ」を目指し、2023 年に未受診妊婦を支援する「無料産院」事業を開始しました。

第 3 創業期 こどもたちのために、 日本を変える

法制化 子ども誰でも通園制度

法制化 子ども性暴力防止法
(日本版 DBS)

2024 年

こどもの体験格差
解消プラットフォーム
「子ども冒険バンク」開始



VISION

今を生きるわたしたちと まだ見ぬこどもたちが
希望と手をつないで歩める社会。さあ、心躍る未来へ。

MISSION

事業をつくり、しくみを変え、文化を生み出し、
ともに「新しいあたりまえ」を未来に手渡そう。



Director's Voice

2018 年に中間支援団体としての「こども宅食応援団」を創設。「こども宅食」のネットワークは全国 47 都道府県に広がっています。

2017 年

「こども宅食」を
東京都文京区で開始



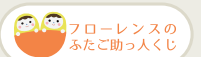
2017 年

マーガレットこども
クリニックを開院
(2023 年に「フローレンスこ
どもと心クリニック」に改称)



2022 年

多胎児支援サービス
「ふたご助っ人くじ」開始



20XX 年

新しいあたりまえを未来に手渡す
「事業をつくる」
「しくみを変える」
「文化を生み出す」





2024年度のフローレンスの活動

全てのこどもたちの、心躍る未来を目指して、この一年に取り組んできた活動をご紹介します。

「こども誰でも通園制度」創設へ向けて法案成立



「こども誰でも通園制度」の創設を含む、「子ども・子育て支援法等の一部を改正する法律案」が参議院本会議を通過し、可決成立。

「つながりよりそいチャット」スタート



山形市より受託し、傾聴型生成 AI と専門スタッフによる孤独・孤立相談「つながりよりそいチャット」の運営を開始。

こども性暴力防止法（日本版 DBS 法）成立



こどもたちを性被害から守るため、こども関連施設・事業者に対し、就職希望者の性犯罪歴の有無の確認を義務付ける制度が実現。

制度の施行に先駆けて、フローレンスの全ての事業や活動において不適切な保育・行為が発生しないよう、こどもたちを性被害から守るための採用ポリシーを導入。



「こども冒険バンク」事業開始



本取り組みは、2025年3月にウェルビーイングアワードでグランプリを受賞。



こどもの体験格差解消を目指し、企業が無料で提供した体験コンテンツを自由に選び申し込みができるプラットフォーム事業。

『障害者雇用の「困った」を解決！発達障害・知的障害のある社員を活かすサポートブック』刊行

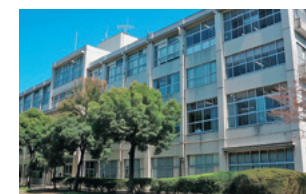


フローレンスの7年半にわたる障害者雇用の取り組みをまとめ、実践的な知識やヒントを広く発信。

障害者雇用 x DX の取り組みが評価され、「JAPAN HR DX AWARDS 2024」優秀賞受賞。



医療的ケア児家庭の学校付き添い実態を調査、結果を公表



都内在住の障害児・医療的ケア児家庭の学校付き添い実態を調査。保護者の心身の負担と仕事への影響が明らかに。

年末の物資支援を全国で実施



困りごとを抱えた全国約1万世帯の子育て家庭、能登半島地震被災地の子育て家庭、フローレンスの病児保育ひとり親会員家庭を物資の配送で支援。

6月

全国で保育園こども食堂を実施する団体をサポート

2024年度「保育園こども食堂」を起点とした食支援事業実施団体への活動助成事業開始（前年度に引き続き2回目）。



7月

男性育休取得率 30.1% 過去最大の伸び率を記録（厚生労働省「令和5年度雇用均等基本調査」）



インクルーシブ・テックに出会う「パラ e スポーツ・フェスタ」開催

肢体不自由のお子さんとそのご家族がテクノロジーを使ってゲームを体験。障害の有無を越えて一緒に遊べるイベントを開催。



8月

『フローレンスの「医療的ケア児保育」はじめて研修』開始

医療的ケア児を保育園で受け入れるために必要な基礎知識を身につけることができる研修の提供を開始。



12月

「フローレンスの無料産院」事業開始から19組を支援

病院と提携し、受診・出産費用を負担することで、孤立し経済的に困窮する妊婦が安心して出産できる環境を提供。



2月

3月



数字で見るフローレンス



ひとり親家庭への病児保育お預かり人数
のべ1,914名
(2025年3月末まで)



事業開始からの病児保育お預かり件数
約14万件
(2025年3月末まで)



障害児・医療的ケア児のお預かり人数
のべ406名
(2024年度までのヘレン、アニー、ナンシー東京、ナンシー仙台の累計)



こども宅食実施団体を通じて食支援をした世帯
のべ16.5万世帯
(2021年度から2025年3月末まで)



国に働きかけて、政策として実現した提言
21件
(フローレンス設立当初から2025年3月末時点まで政策を構想し、国に政策提言して実現した件数。この他、自治体への政策提言も多数)



無料産院事業で支援した親子
のべ19組
(事業開始から2025年3月末まで)



チャットボット妊娠相談の利用者
のべ11,850件
(2020年から2025年3月末まで)



こども冒険バンクに登録した世帯数
のべ1,381世帯
(1世帯平均2.9人)
(2025年3月末まで)



フローレンスこどもと心クリニック受診者数
のべ1,891件
(2023年11月から2025年3月末まで)
(女性のための心療内科989件、不登校外来902件)

フローレンスの取り組み

たった一人の声から始まった
フローレンスの取り組み。
2024 年も活動の輪は
広がり続けています。



支援活動

- **病児保育**
親御さんに代わって熱や体調不良のお子さんを自宅で看病する
- **ひとり親支援**
寄付により、ひとり親家庭への病児保育を低価格で提供する
- **多胎児家庭支援**
多胎児家庭専門の訪問サポートサービス「ふたご助っ人くじ」

病児保育事業／ 寄付によるひとり親支援／ 多胎児家庭支援

利用者の声 最近ひとり親になった方にフローレンスを紹介しました。担当してくださった先生は、お子さんと一緒に絵を描いたり、塗り絵をしたりと一日中遊んでくれ、先生が帰った後には「もっと遊びたかった」と話すほど喜んでいました。預け先が見つからずに仕事を辞めることもあるひとり親にとって、安心して子どもを預けられるフローレンスの存在は本当に心強いです。

親子のピンチに駆けつけ、 仕事と子育ての両立を支える 病児保育事業

フローレンス創立とともにスタートした訪問型病児保育は、2025 年 3 月に累計提供件数が 14 万件を突破。特に 2024 年の夏には、溶連菌感染症や手足口病など、複数の感染症が同時に感染急拡大し、病児保育の依頼数が激増する中、親子のピンチに駆けつけ、仕事と子育ての両立を支え続けました。

また、多胎児家庭を支援する「フローレンスのふたご助っ人くじ」は、対象となる地域を広げ、年間サポート件数が 2,300 件となりました。

今後も新しいあたりまえを目指して、事業と支援内容の充実に尽力します。

みらいの保育園事業



家ではなかなかできないことを
たくさんできる環境が
ありがたいです

利用者の声 「こども誰でも通園制度」で月に 2 回ほどの利用でも、コップの飲み方が上手になったり、言葉に興味を持ってたくさん話すようになったなど、保育園で少し年上のお友達と関わることでのポジティブな影響がたくさん。保育園に行った後は、こどもが精神的に安定していて、帰宅後もぐずることなく過ごすことができました。

地域の子育て支援の拠点として、 新しい保育園のかたちを目指す

多様化する親子の課題に保育で伴走するため、0～2 歳児のための小規模園「おうち保育園」、5 歳児までのための認可保育園「みんなのみらいをつくる保育園」、一時保育施設の運営を行っています。2024 年度は、地域の子育て支援の一環として、6 月に法案が成立した「こども誰でも通園制度」の試行的事業の実践や、小規模園で医療的ケア児のお預かりをスタートした他、「シチズンシップ保育[※]」の浸透に向けた講演活動などに取り組んできました。今後も、「社会で子どもを育む新しい保育のかたち」「こどもたち自ら『みらいをつくる』ことがあたりまえな社会」の実現を目指して活動内容をさらに進化させます。

※ 気持ちや意見を伝え合う「対話」を大切にし、自分のため、誰かのため、自ら考え行動する力を育む保育

支援活動

- **小規模認可保育所**
待機児童問題の解決を目指して生まれた「おうち保育園」
- **認可保育所**
こどもたち自身でみらいをつくる力を育む「みんなのみらいをつくる保育園」
- **一時保育室**
一時的にお子さんを預かり育児をサポート

支援活動

- **障害児保育・家庭支援**
障害児・医療的ケア児への保育を通じて、お子さんの成長と保護者の就労を支援する
- **遊び・交流の場づくり**
障害の有無に関係なくやりたいことにチャレンジしたり、家族同士が交流する場の提供



同じ悩みを抱えている方々に
紹介したいです

障害児保育・ 家庭支援事業

利用者の声 遊びと看護のプロが家に来て見てくださるのは最高の事業だと思います。小さい頃からさまざまな季節を感じる遊びを通じて子の心や体の発達に良い刺激を与えてくれ、子の成長につながっています。ナンシーの看護師が見ていてくださる間は、親たちは仕事をしたり、リフレッシュしたりできるので、本当に感謝しています。同じ悩みを抱えている方々にお勧めしたいです。

障害の有無に関係なく、 一緒にいることが自然であたりまえの社会へ

医療的ケア児支援法の施行により、認可保育園や幼稚園で医療的ケア児の預かりが進んでいます。その中で、受け入れをサポートするべく、2024 年 11 月に医療的ケア児を預かるノウハウが学べる保育士・看護師向けの『フローレンスの「医療的ケア児保育」はじめて研修』を作成しました。e ラーニングと障害児保育園ヘレンでの現場体験で学びます。また、「障害の有無に関係なく一緒にいることが自然で、お互いに気にかけることがあたりまえの社会」を目指してテクノロジーを使ってゲームを楽しむ「パラeスポーツ・フェスタ」を開催しました。これからもフローレンスは、これまで培った医療的ケア児・障害児保育のノウハウを全国に積極的に広める活動に注力する他、障害のあるお子さんがやりたいことにチャレンジできる機会づくりにも取り組んでいきます。



支援活動

● こども宅食

全国のこども宅食実施団体を通じて全国規模で食支援を行う

● ハイブリッドソーシャルワーク

デジタル支援と対面支援を組み合わせた新しいソーシャルワーク

こども宅食・ ハイブリッドソーシャルワーク事業

利用者の声 いつもはお菓子を買えないので、宅食が届くとこどもたちが「今すぐ食べたい」「本当にうれしい」と目をキラキラ輝かせていました。（こども宅食）
いつも SNS でいろいろな情報を送ってくれて、イベントを企画してくださっている方々と、実際にお会いしてお話しできて、とても癒されました。笑顔で温かく接していただき、ありがとうございました。（ハイブリッドソーシャルワーク）

全国の子育て家庭へ、つながりを届ける 全国の自治体や地域の支援団体、企業と連携

大手食品メーカー・卸の協賛のもと、困窮・障害などの困りごとを抱える全国の子育て家庭へ支援を行う「こどもフードアライアンス」を実施し、各地のこども宅食活動を通じて食を届けました。また、普及推進活動として、こども宅食の47都道府県での実施を達成した他、自治体・民間団体を対象に「子育て世帯へのアウトリーチ支援全国状況調査」を行いました。ハイブリッドソーシャルワークでは、山形市などで生成 AI を活用した新たな相談支援サービスを開始。デジタルでつながったご家庭へのランドセルや食品などの無料配布も実施しました。

今後は、それぞれの取り組みをさらに継続・発展させながら、地域に根ざした支援のあり方を全国で広げていきます。



99
食品は心も体も
満たされて助かります

88

みちのくえがお創出事業 （仙台支社）



支援活動

● 小規模保育所

仙台市認可園と自治体に縛られない企業主導型の2園で地域の親子を支える

● 障害児家庭支援

医療的ケア児家庭に看護師が訪問する「仙台ナンシー」

● 政策提言

「せんだい子ども未来会議」にて、仙台の医療的ケア児・障害児家庭のため政策提言を実施

みんなで社会変革事業 （寄付・広報）／代表室



支援活動

● 政策立案・政策提言

当事者ニーズに寄り添った「新しいあたりまえ」をつくるための取り組み

88

素敵なプレゼントをありがとう

88

利用者の声 能登半島地震の発生から日常とは程遠い生活を送っており、3歳の娘は地震がくるたびにものすごい勢いで机に潜りこみ、体を震わせて汗だくになりながら毛布にくるまってしばらく顔を出すのを嫌がるほど怯えて暮らしています。そんな中、いただいたクリスマスプレゼントを娘に渡したところ、目をキラキラさせて喜び、少しずつ地震を忘れて、楽しく遊べる時間が増えました。

時代に合ったルールづくりと提案 そして、世の中のニーズに応じた支援に取り組む

2024年6月には「日本版DBS」の創設を含む、こども性暴力防止法が可決・成立しました。「日本版DBS」は、こどもたちを性被害から守るため、こども関連施設・事業者に対し、就職希望者の性犯罪歴の有無の確認を義務付ける制度です。今後も、この法律が実効性のあるものとなるよう提言を続ける一方で、こどもに関わる事業者への意識の醸成、トラウマケアの必要性の啓発を行っていきます。

この他、男性育児義務化に向けた政策提言を推進し、2024年7月に発表された男性育児休業取得率（令和5年度実績）は30.1%と過去最高の伸び率を記録。また、クリスマスには全国約1万世帯に食品や日用品、おもちゃなどを届けました。



88 家族で楽しい時間を
過ごしました 88

利用者の声 医ケア児おやこ映画会は貸切のシアターだったため、周囲に気を遣うことなくリラックスでき、スタッフの方々の丁寧なサポートも心強かったです。きょうだい児も一緒に参加できたことで、親の不安も軽減され、家族でゆっくり楽しめる時間になりました。医療的ケア児のいる家庭にとって、こうして安心して参加できる機会があります。

● 孤育てを減らし「社会で子育て」の文化を作り出す

2022年より「おうち保育園かしわざ」では、在園児だけでなく、地域で保育の場につながっていないお子さんにも対象とした定期的な預かり保育を実施しています。安心して過ごせる居場所を提供し、誰も取り残さない保育を目指しています。

また、地域に開かれた取り組みとして「保育園こども食堂」を開催し、保護者や地域の方々とのつながりづくりを大切にしています。2024年には障害のあるお子さんや医療的ケア児とそのご家族も参加できる「りんご狩り」や「キャンプ飯体験」なども実施し、誰もが楽しめる体験の場を広げました。

さらに、医療的ケア児に関する情報が届きにくい現状を踏まえ、医療的ケア児支援ガイド仙台版を作成し、仙台市内に500部を配布しました。支援を必要とする家庭が必要な情報にアクセスできるよう、今後も取り組みを続けていきます。



バックオフィス (人事・経理・総務・法務)



障害のある子どもたちが、 職業に就く未来を あたりまえに想像できる社会を目指して

フローレンスの障害者雇用は、法定雇用率を達成することだけが目的ではありません。わたしたちが目指しているのは、どんな立場にいるスタッフも、自分の得意を活かし、それが組織の中で必要とされる環境です。それを実現するためには、仕組みや社会のあり方そのものを見つめ直すことが不可欠だと考えています。

2024年11月、7年半にわたる現場での実践をもとに、書籍『障害者雇用の「困った」を解決！発達障害・知的障害のある社員を活かすサポートブック』を刊行。業務の切り出しや指示の工夫など、現場で蓄積した実用的ノウハウをまとめました。この取り組みは、「JAPAN HR DX AWARDS 2024」において優秀賞を受賞することができました。

これからもダイバーシティ＆インクルージョンの取り組みにさらに磨きをかけながら、一人一人が尊重され、その人らしい生き方、働き方を叶える組織づくりを続けていきます。

取り組み

● 障害者雇用

デジタルツールを活用し、障害のあるスタッフが成果を出せる仕組みを構築

● 働きがいのある組織づくり

仕事を通じて目指す社会像・自分像へ向け進んでいると実感でき、挑戦と成長が後押しされる仕組みと機会の創出



にんしん相談／ 赤ちゃん縁組事業



利用者の声 予期せぬ妊娠で経済的に不安があった時に、ネットでこの事業を知りました。専門家のサポートによって安心して出産でき、赤ちゃんの命を救っていただきました。どこにも相談できずにいましたが、寄り添い、一緒に考えてくれました。事情を打ち明けて相談できる場所があることが、困っている方々にもっと知られてほしいです。

赤ちゃんとお母さんの未来のために 新しい家族の誕生をサポート

生まれたばかりの赤ちゃんの遺棄・虐待死が続く状況を改善すべく、にんしん相談や赤ちゃん縁組事業（特別養子縁組）、無料産院事業に取り組んでいます。2023年6月に開始した無料産院事業では、4院の医療機関と提携して19組の妊婦とお腹の赤ちゃんをリスクの高い孤立出産から守ることができました。また、2024年度には4件の特別養子縁組の委託があり、2016年からのべ45件もの新しい家族の誕生をサポートしました。こうした長年の相談支援の実績が認められ、東京都の「特定妊婦等に対する相談支援及び産科受診等支援業務」を再受託しました。これまでの経験を踏まえながら、引き続き取り組みを推進していきます。

支援活動

● にんしん相談

予期せぬ妊娠に悩む方への専門相談員による相談支援

● 特別養子縁組

「生んでも育てられない」と悩む生みの親と、子どもを迎え入れ育てたいと願う育ての親をつなぎ、赤ちゃんが温かい家庭で愛情を受けながら育つことを支える取り組み

こども冒険バンク



支援活動

● こども冒険バンク

体験が不足しがちな家庭が、企業が無料で提供した体験コンテンツを自由に選び申し込みができるプラットフォーム事業



利用者の声

Tシャツ作り体験では、自分たちで作ったTシャツをその場で着ることができ、娘たちは大喜び。とても気に入ったようで、翌日も小学校と保育園にそれぞれ着て行くほどでした。体験中のスタッフの皆さんは子どもたちをたくさん褒めてくださり、楽しい時間を過ごすことができました。普段なかなかできない貴重な体験をさせていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

こどもの体験格差という 新しい社会課題の解消に向けて

こどもの体験格差という社会課題解決のため、多様な業種の企業や団体から提供される体験コンテンツの中から自由に選び申し込みができるプラットフォーム事業「こども冒険バンク」を2024年8月1日より開始し、体験が不足しがちな家庭への支援を行っています。この取り組みは、2025年3月に行われたウェルビーイングアワードでグランプリを受賞することができました。

今後も全国各地のさまざまな企業や団体と協力し、日本全国に体験が届くプラットフォームを構築していくとともに、体験格差という社会課題を世の中に訴えかけていくことで、格差解消の実現を目指していきます。

皆さんののおかげで
楽しい時間になりました



支援活動

● 女性のための 心療内科

女性医師による専門的な視点で、女性の心身の健康をサポートする

● 不登校を選んだ子の ための外来

不登校を選んだお子さんの心身の健康を支え、親子が歩む過程に伴走する

先生に話を聞いてもらえると、
心が軽くなります



© 金澤美佳 _soar

フローレンス こどもと心クリニック



利用者の声

先生はいつも親身になって話を聞いてくださり、とても優しく丁寧に対応してくださいます。初めて伺った日も、どこに吐き出していいかわからなかった悩みや思いをすべて安心して打ち明けることができました。先生にお話を聞いていただくと、心がずっと軽くなり、ここに来て本当に良かったと心から思います。

家事育児や介護、不登校、こどもの成長発達など 親子と女性のつらさに伴走するクリニック

2023年11月より、「女性のための心療内科」および「不登校を選んだ子のための外来」の開始。反響を受けて、診察室を拡張しながら診察をしており、それぞれのべ1,000件近くの受診に対応してきました。また、不登校について複数のマスメディアから取材を受け、不登校を選ぶお子さんの心理や保護者の対応方法などについて発信しました。今年度は、引き続き女性のための心療内科、不登校を選んだ子のための外来にも注力しながら、現代のこどもや女性が抱える悩みにさまざまな角度からアプローチするクリニックとして、新たに「小学生からのビル外来（生理外来）」にも取り組んでいます。生理のつらさを我慢する時代から治療できる時代へ、新しいあたりまえを提案します。

フローレンスに 託してくれた 寄付者さんの声

取り組みを理解・共感し、
力を与えてくださる
皆さんの“想い”をお届けします。

向井 みどりさん

「誰もが安心して楽しくやりがいを持って生きられる社会」を実現したいです。二児の親、企業の中間管理職として、家族や環境といった各種の「ガチャ」が人生に与える影響の大きさを痛感しており、この現状を変えていきたい。ひとり親支援、障害児保育、にんしん相談、赤ちゃん縁組、体験格差の解消、心と体の健康を守る医療の提供の他、各課題に極めて具体的にアプローチし、解決に近づけていくフローレンスの皆さんに強く共感し、応援しています。



全てのこどもたちが 健やかに成長できる社会をつくりたい 小説家 葉真中 顕さん

自己責任という冷たい響きのする言葉があります。好んで使う人もいます。しかし生まれてくるこどもたちになんの責任があるのでしょうか。むしろ、どんな家庭のこどもにも、健やかに育つ環境を与えることが、わたしたちの社会全体の責任ではないのでしょうか。そうした思いから、特に困難を抱えがちなひとり親世帯への支援をしているフローレンスへの寄付を続けています。微力ではありますが、わたしたちが果たすべき責任を果たすため現場で汗をかく方の支えになれていることを誇りに思います。



佐野 勝己さん（仮名） （遺贈寄付者）

佐野さんは、遺言書でフローレンスへ財産を残してくださいました。障害のあったお子さんを40代で、コロナで奥様を亡くされた佐野さん。「自分にはもう相続させる相手がいないが、少しでも残る財産はどうかこどもたちのために使ってほしい」というお気持ちで、病室のベッドの上で遺贈先を決めてくださったとのこと。わたしたちはそのご意志を心からの敬意を持って受け止め、これからもこどもたちのために活動してまいります。

遺贈寄付とは

遺言などによりご自身の遺産から、または相続された財産などからのご寄付のことです。故人の生きた証や思いを、日本のこどもたちの明るい未来の実現につなげることができます。



見過ごされがちな声に 光をあてる活動に共感

MFSインベストメント・マネジメント株式会社

短期的な成果ではなく、構造的な課題と向き合う団体への中長期的な支援を大切にするチャリティー委員会の方針のもと、フローレンスを継続して支援しています。社会の見過ごされがちな部分に光をあて、実直に行動し続ける姿勢に強く共感しています。

こどもたちが 希望をもって成長できる社会に

株式会社千趣会

育児商品の開発・販売や保育事業を展開する千趣会は、子育てに関する社会課題にも強い関心をもち、通販「ヘルメゾン」のお客様から寄せられる募金や売上の一部をもとに、この解決に取り組む団体等を支援しています。これからも、こどもたちを経済面のみならず心のケアや成長の面でもサポートできるような活動を行ってまいります。



企業・団体の皆さんへ
寄付のご相談・
お申し込みはこちら

フローレンスを支えてくださった

足の8020

一般社団法人足の8020

coca

株式会社adapt retailing



株式会社invox



Water Dragon Foundation



MFSインベストメント・マネジメント株式会社



株式会社 MCJ



コストコホールセールジャパン株式会社



公益財団法人小林製薬青い鳥財団



株式会社サックスバーホールディングス

SystemMetrix

システムメトリックス株式会社

公益財団法人
洲崎福祉財団

公益財団法人 洲崎福祉財団



株式会社セブン & アイ・ホールディングス

ウーマン スマイル カンパニー
senshukai

株式会社千趣会



ダウ日本グループ



ティール・ロウ・プライス・ジャパン株式会社



デッカーズジャパン合同会社



トライアロー株式会社



日本オラクル株式会社



ベントール・グリーンオーク株式会社



ボストン・サイエンティフィックジャパン株式会社



明治ホールディングス株式会社



LAMPS株式会社

アイディール・リーダーズ株式会社 | ウイングアーク1st株式会社 | エス・ビー・エス株式会社 | 大阪・奈良税理士協同組合 | 三愛オプリー株式会社 | 株式会社C-links | ステアックス株式会社 | DAIKO XTECH株式会社 | 大和ハウス工業株式会社 | 株式会社探究学舎 | 株式会社ビー・エス・デーインフォメーションテクノロジー | 株式会社ファイントウデイ | 富士通株式会社 | 株式会社Brillar | 株式会社プロロジス | 細木数子事務所 |

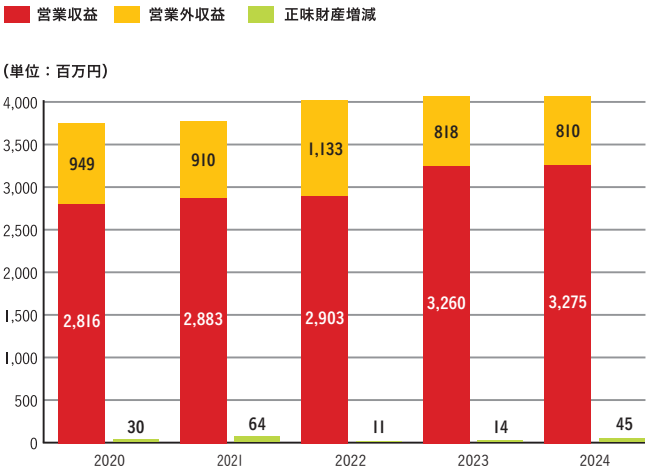
企業・団体（一部紹介）

※五十音順・敬称略

オリエント・マーケットインサイト株式会社 | 株式会社さくや美粧堂 | 株式会社講談社 | コンパスグループ財団（コンパスグループ・ジャパン株式会社） | 株式会社トーコネ | 株式会社トライ・ワークス | 株式会社日本ギャップ解決研究所 | ネスリーフ株式会社 | 株式会社一 | 株式会社三菱UFJ銀行 | 子豊株式会社 | 横浜ゴム株式会社・YOKOHAMAまごころ基金 | 株式会社リコー | 株式会社林間 | 株式会社ロジックペイン

2024年度 財務報告

収益・正味財産増減額



収益増減額サマリー

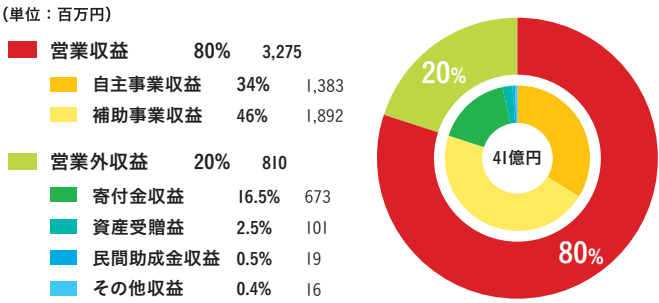
フローレンスの2024年度の総収益は40億8千5百万円、前年比横ばいとなりました（＋6百万円、前年比100％）。今年度も昨年度に引き続き、食支援活動事業への補助金（2億5千万円）を受領し、全国の「保育園こども食堂」に対して支援を行っています。

正味財産増減額サマリー

総費用は、40億2千5百万円（前年比97%）、正味財産（純利益）は昨年度より＋3千1百万円増加（前年比328%）して4千5百16万円です。

※収益は指定正味財産からの振替増を含みません。

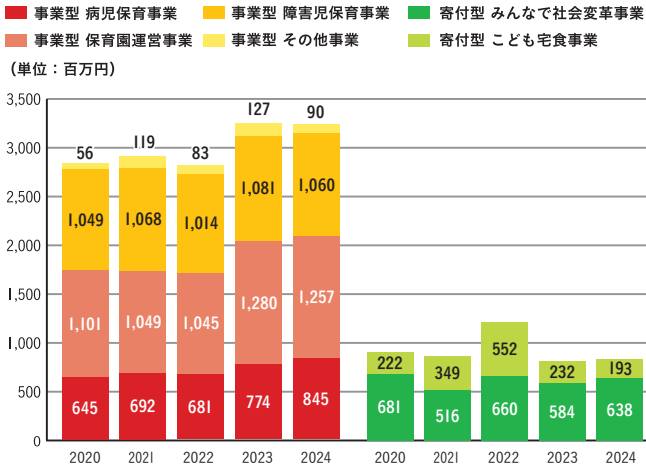
収益の内訳



収益内訳サマリー

2024年度40億8千5百万円のうち、地方自治体からの保育園運営及び福祉事業の運営補助金が18億9千2百万円（46%）、寄付収益は6億7千3百万円（17%）でした。皆さんよりご支援いただいた寄付金は、新たな福祉サービスの開発や事業投資、政策提言活動などに使用し、社会課題解決に向けた推進の力としております。

事業モデル別収益



事業モデル別の収益推移サマリー

フローレンスの事業は、サービス提供による事業収益を主な原資とするモデル（事業型モデル）と、寄付収入を主な原資とするモデル（寄付型モデル）の2つの事業モデルがあります。

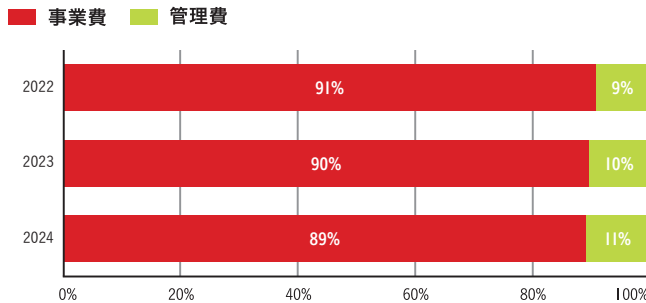
事業型モデル

- 病児保育事業…利用会員一人あたりの保育件数が増加しており、保育料及び保育件数に連動する平均月会費の引き上げによって昨年度に続き収益増となりました（前年比109%）。
- 保育園運営事業…待機児童問題の解消を受けて、運営する保育園の閉園・譲渡を実施しました。新たな取り組みとして「こども誰でも通園制度」の活用や、保育園で食支援を実施する「保育園こども食堂」に取り組んでいます（前年比98%）。

寄付型モデル

- 体験格差解消に向けた「こども冒険バンク」事業を新たに開始いたしました。
- ※事業型 その他事業には、赤ちゃん縁組事業、団体支援事業が含まれます。

事業費比率



事業費比率サマリー

経常費用のうち、法人運営のための管理費を除いて社会問題解決のための事業に使用された費用の割合を示す事業費比率は、2024年度は89.2%でした。フローレンスでは事業費比率90%前後を目安として事業運営しております。

2024年度 貸借対照表

科目	金額（単位：百万円）
I 資産の部	
1 流動資産	2,312
2 固定資産	270
資産合計	2,582
II 負債の部	
1 流動負債	502
2 固定負債	966
負債合計	1,468
III 正味財産の部	
正味財産合計	1,114
負債及び正味財産合計	2,582

2024年度 活動計算書

科目	金額（単位：百万円）
I 経常収益	
1. 受取寄付金	673
2. 受取助成金等	1,911
3. 事業収益	1,383
4. その他収益	117
資産受贈益	101
その他	16
経常収益計	4,085
II 経常費用	
1. 事業費	3,591
2. 管理費	435
経常費用計	4,026
当期経常増減額	59
III 経常外収入	
経常外収入計	146
IV 経常外費用	
経常外費用計	159
法人税、住民税及び事業税	1
当期正味財産増加額	45

開示情報の前提

NPOはあくまでも「社会課題の解決」を存在意義とし、利益は継続的な活動をしていくための手段です。とはいえ責任を持って持続可能な運営を行うためには、企業と同様に財務健全性を度外視することはできません。フローレンスはそうした財務健全性を保つため、本ページにおいて財務情報の開示を行い、経営の透明性を高めてまいります。なお、会計処理及び開示方法については、NPO会計基準に従っております。

MESSAGE

託された想いを形に
財務の視点から2024年度の活動報告

いつもご支援いただきありがとうございます。
財務の視点で特に大きく動きがあった活動を報告いたします。

わたしたちの事業には、主にサービス収益で運営される病児保育事業や補助金で運営される保育園事業といった「事業型モデル」と、主にご寄付で運営されるこども宅食事業といった「寄付型モデル」があります。収益のうち46%を占める補助金は、主に認可保育園や障害児保育の運営のために給付された補助金です。

「事業型モデル」の保育園運営事業では、東京都の保育園待機児童数が2010年の8,435名から361名まで減少（95.7%減）し、フローレンスの役割も「待機児童問題解消」から「地域と家庭をつなぐ場」となるよう事業変革を進めています。「地域と家庭をつなぐ場」の実践として前年同様に地域の親子を対象に、保育園でこども食堂とパントリーを実施する『保育園こども食堂』に取り組みました。また中間支援団体として資金助成と運営サポートを全国112事業者に対して行いました。

「寄付型モデル」では、こどもの体験格差をなくすことを目的とした『こども冒険バンク』事業を開始しました。企業から工場見学などの体験を提供いただき、こどもたちに体験を届けるプラットフォーム事業です。『こども冒険バンク』は、2023年度に実施した渋谷区の「ふるさと納税を活用した認定NPO法人支援事業」によるご寄付を活用して運営しています。また、ご寄付を原資として政策提言活動を行ってきた「日本版DBS」と「こども誰でも通園制度」も、「こども性暴力防止法」及び「子ども・子育て支援法」に含まれる形でそれぞれ法制化することができました。皆さんからのご支援や応援により、2024年度もこれらの新しい社会課題解決に取り組むことができました。あらためてお礼を申し上げます。



財務担当ディレクター

杉山 富美子

